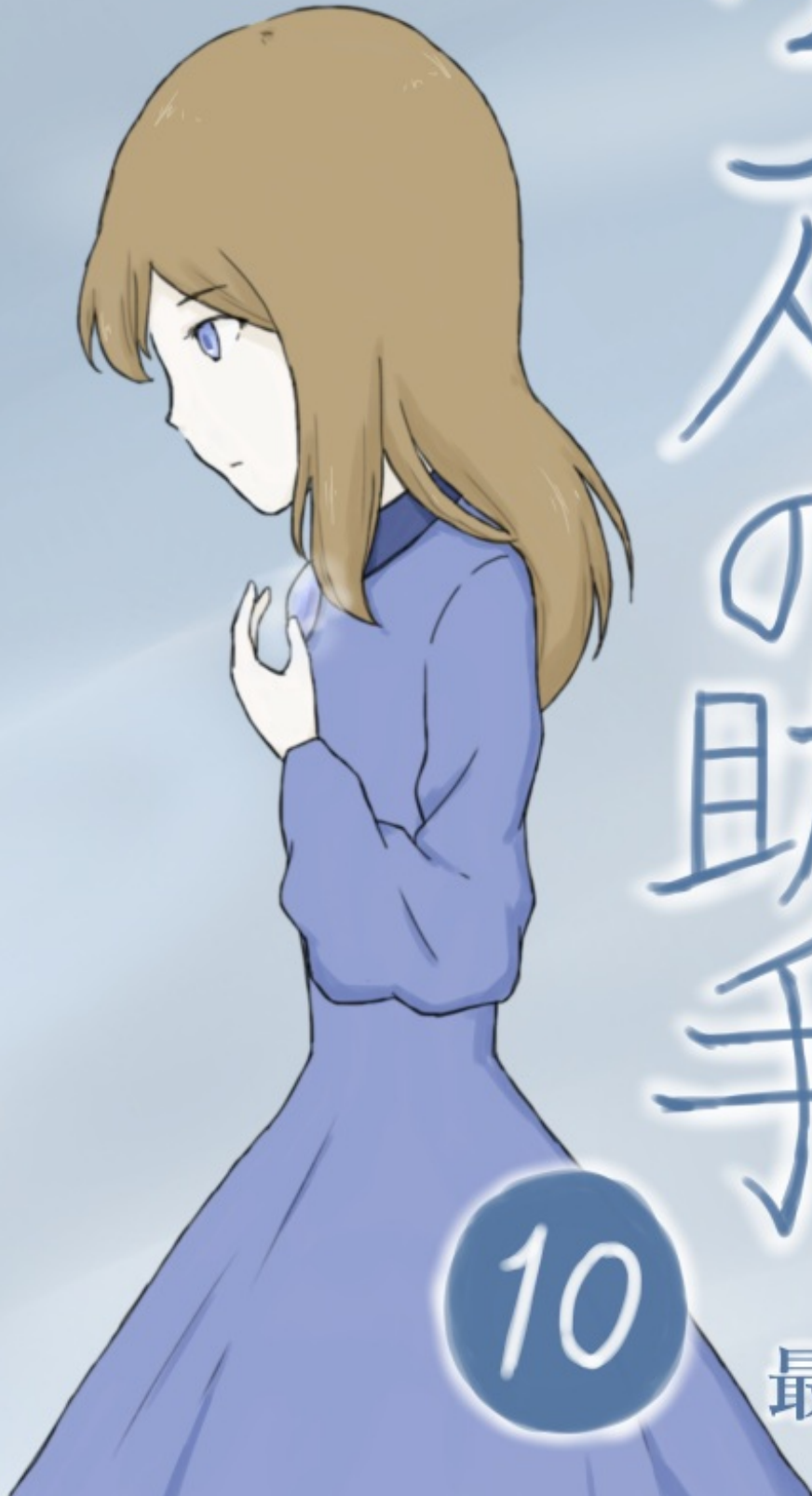


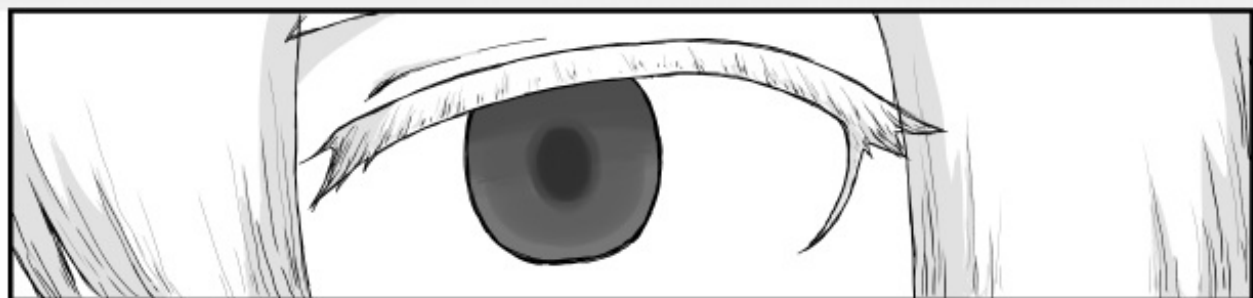
魔法使いいと

3人の助手

10

最後の夢





僕は



何をした……？



ヒヨリさんまで…



…どうして



僕が
やったんですか…？



…あれは



……

さっきのお前は
普通じゃなかった

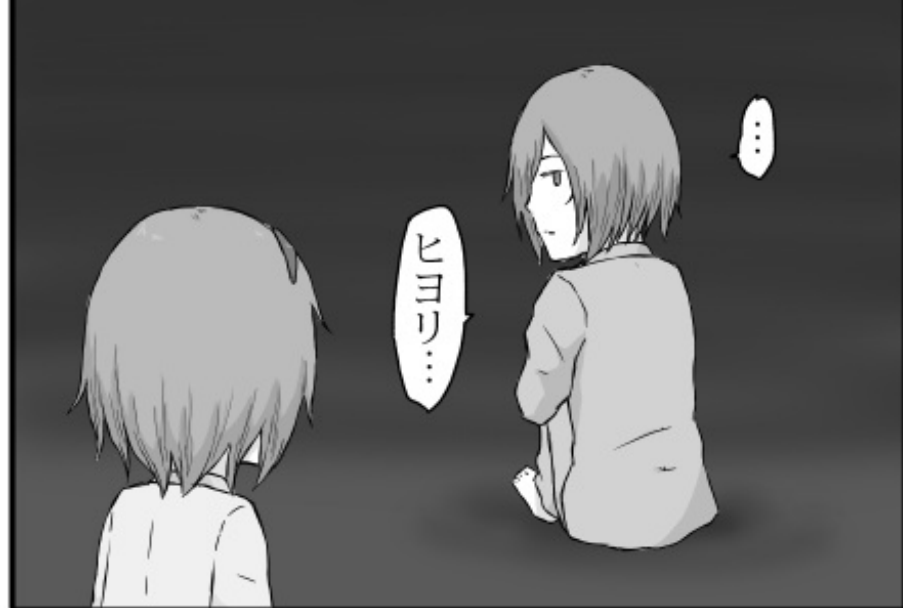


やっぱり
お前の意思じゃ
なかったんだな？

…僕は

僕がああ絵を
描いたのは


ヒヨリを守るため
だったのに——





そして罪人たちは
眠りにつく

「最後の夢」の中へ
入るのだ



僕は

ヒヨリを
守るために

あの絵を…



…違う

僕は
ヨウじゃない…

…でも
この記憶は

ヨウの…





真っ黒に
塗られていて…

…竜人族の村を
描いたページは

村はもう
もとに
戻らない…

…
だめなんだ

その時
僕は—

…ヨウは

…竜の国を
まもってくれてた
のに…

竜人さんたちは
しんじやったから…

いつか
あの黒い炎が

ヒヨリをどこかへ
連れ去ってしまっ
て気がして――

…大丈夫

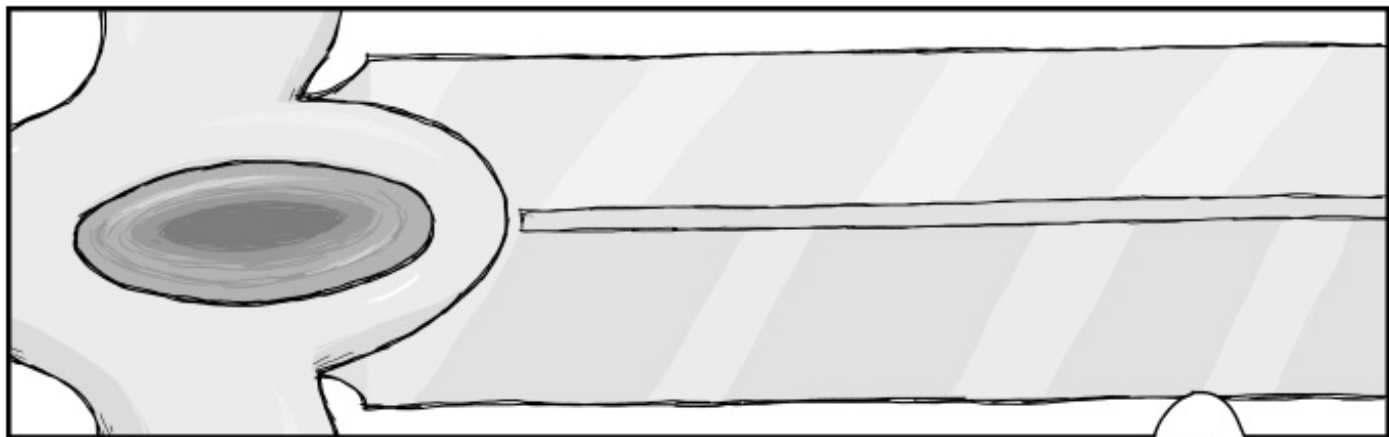
大丈夫だよ

ゆーしやの
剣はね

あの黒い炎を
あやつれるんだ

だからきこと





ヒヨリ…



：勇者さんが
思い出した
ヨウさんの記憶と

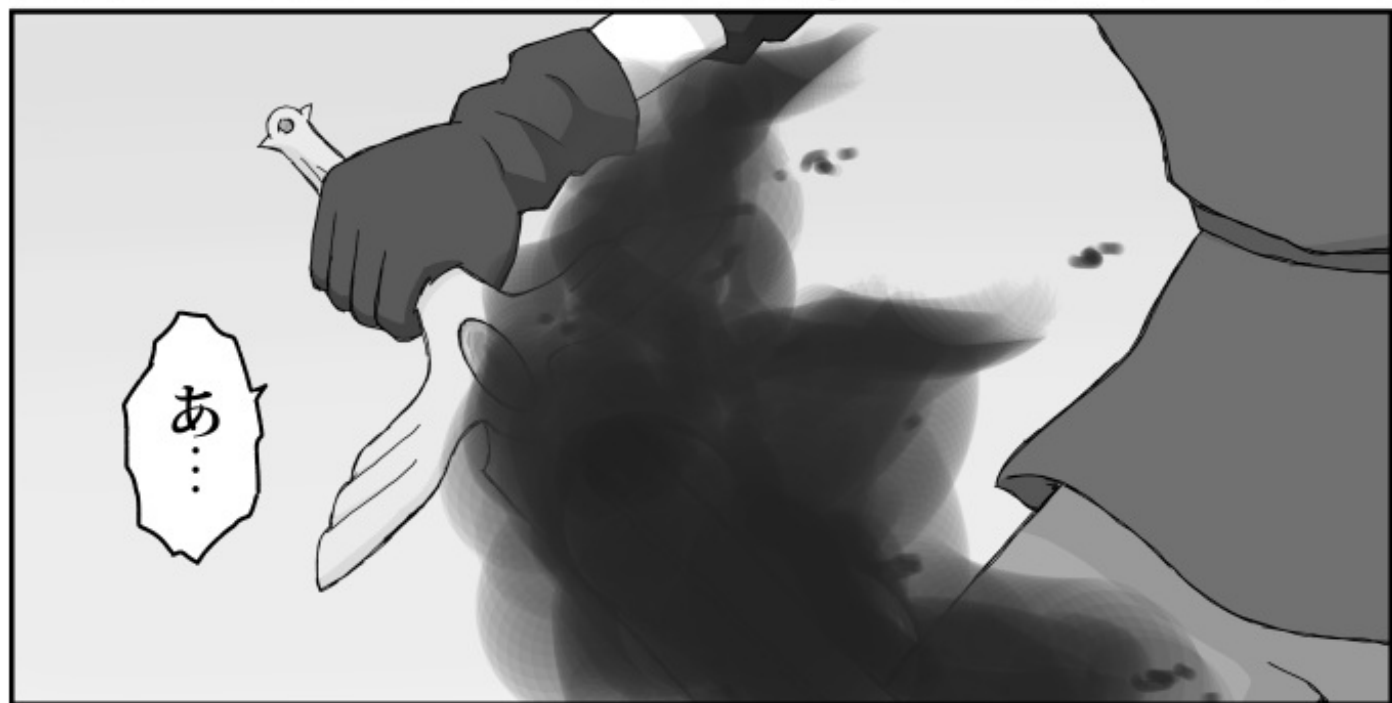
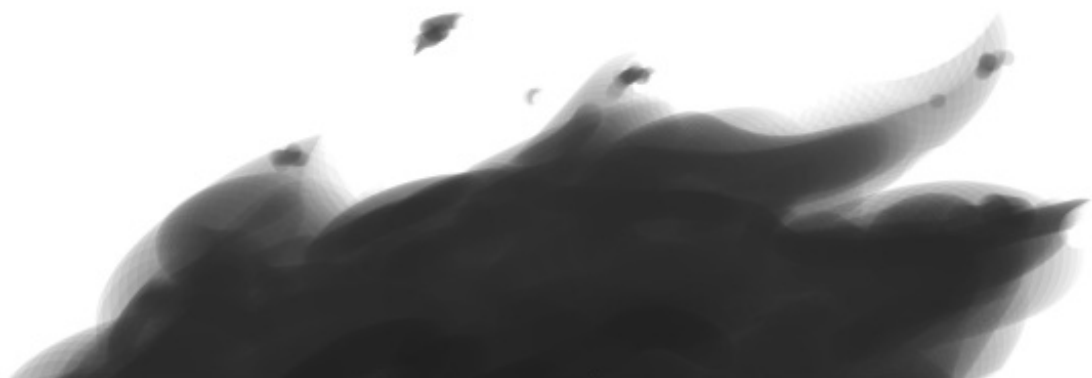


剣が
共鳴すれば…



：何が起こるかは
ワタシにも
分かりません

上手く行くか
どうか…





我は
罪を裁く炎

罪を負う
者たちよ



我の中へ——

兄ちゃん

ぼくね

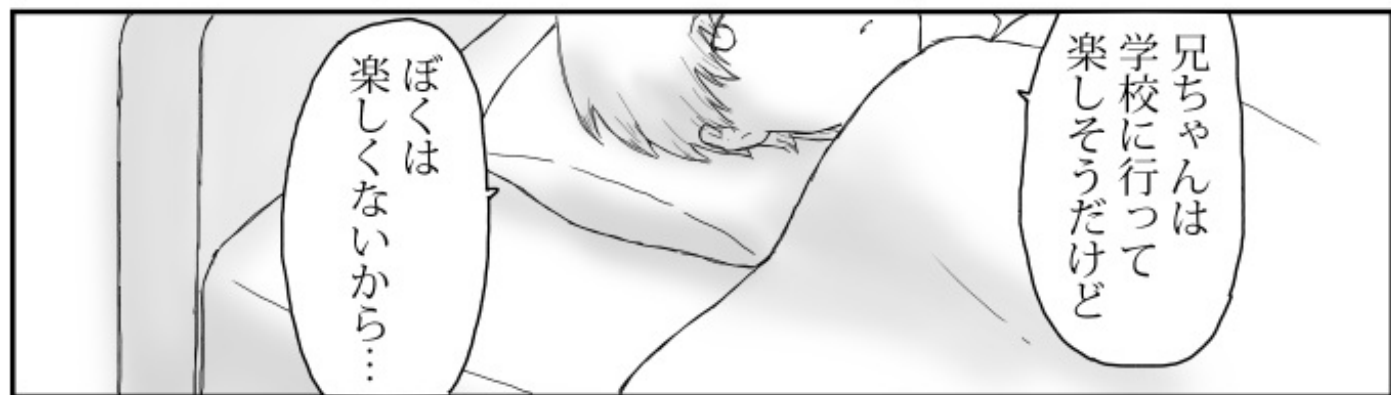
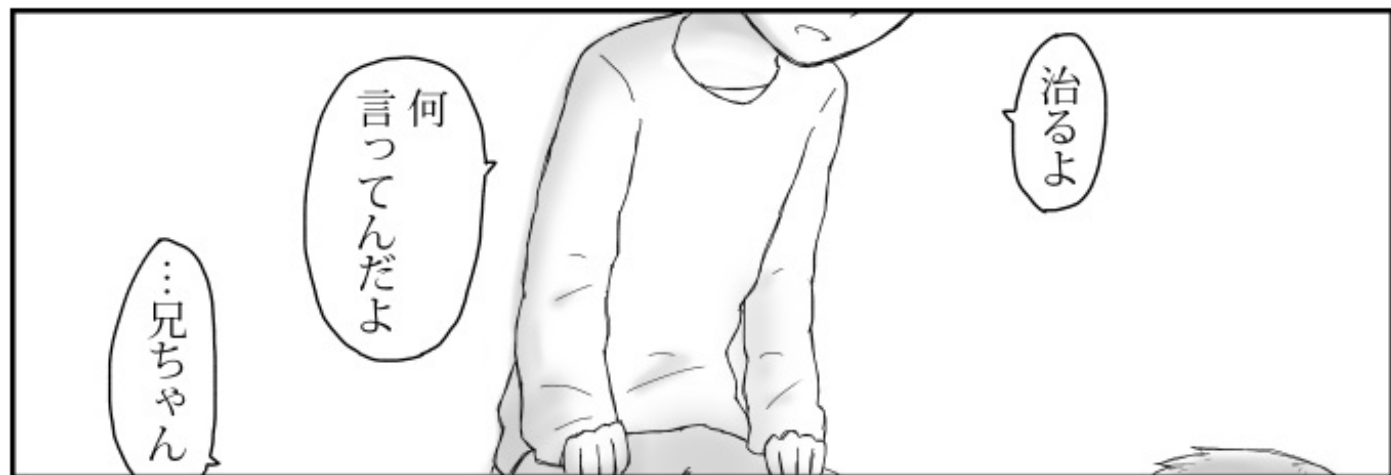
もう学校は
行きたくない

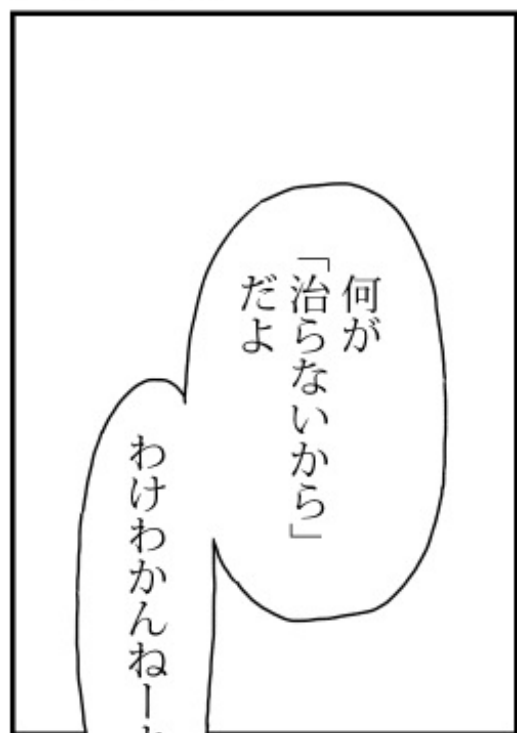
——なんで？

ユウキあんなに
行きたがって…

だってぼく

なおらないから





お前だけ
楽しい思いすんな
って

言われてる
みたいで

嫌なんだよ

あ

コウ
笑った

…よかった

あれからずっと
笑わなかった
から…

あれから…？

…そうだ
オレ、

コウ
かおる

ユウキが…

あれから
笑えなくなったんだ

学校行って
友達といると

ああ、あいつも

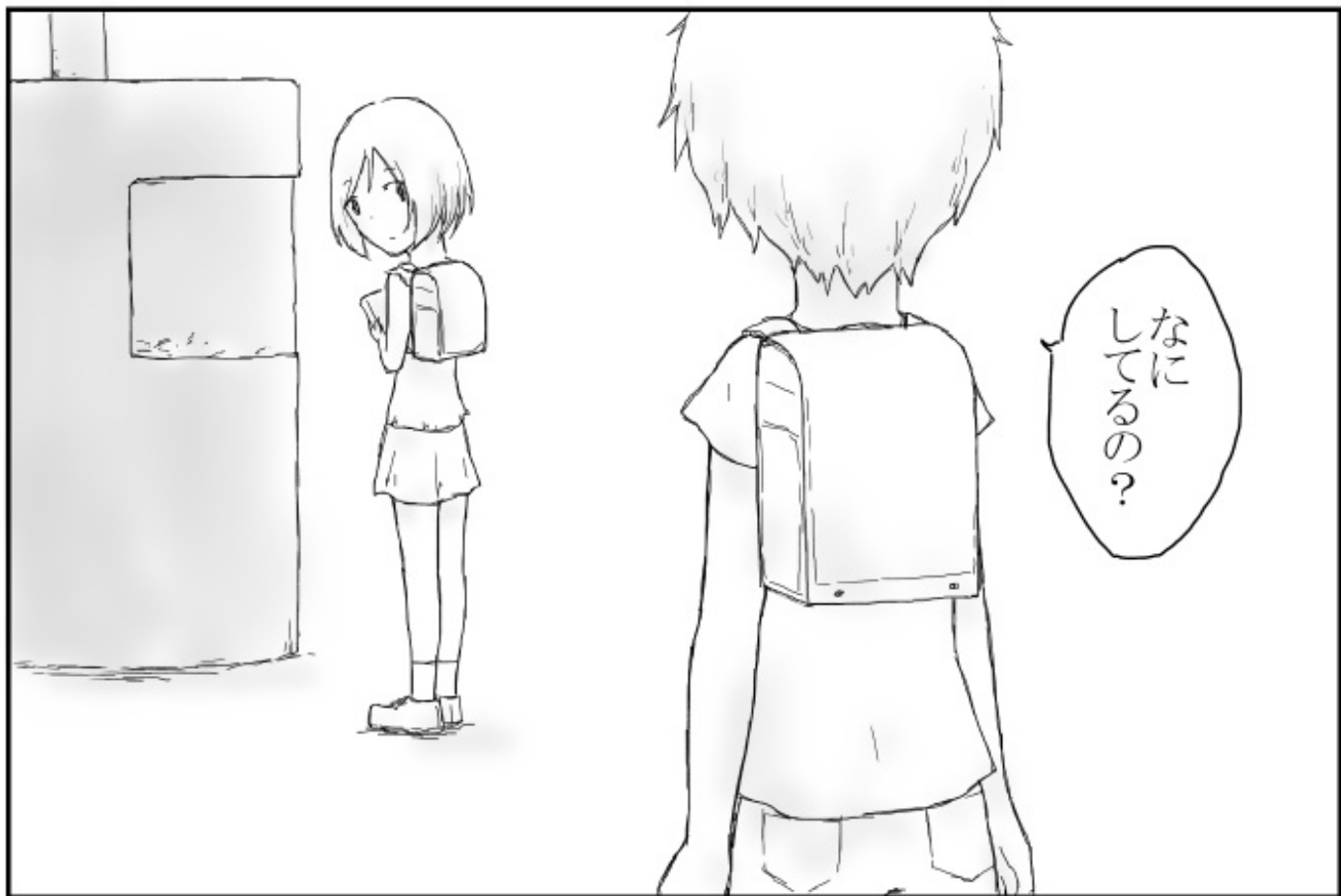
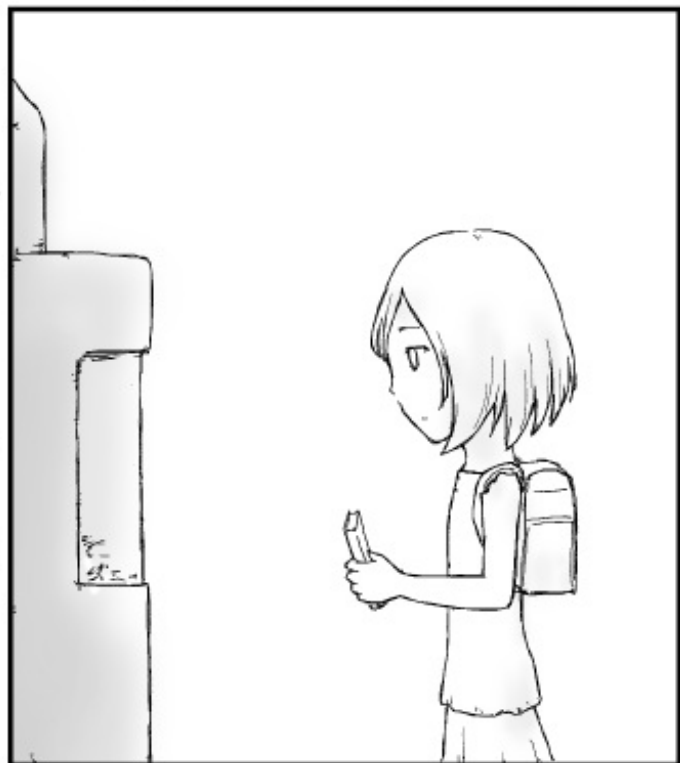
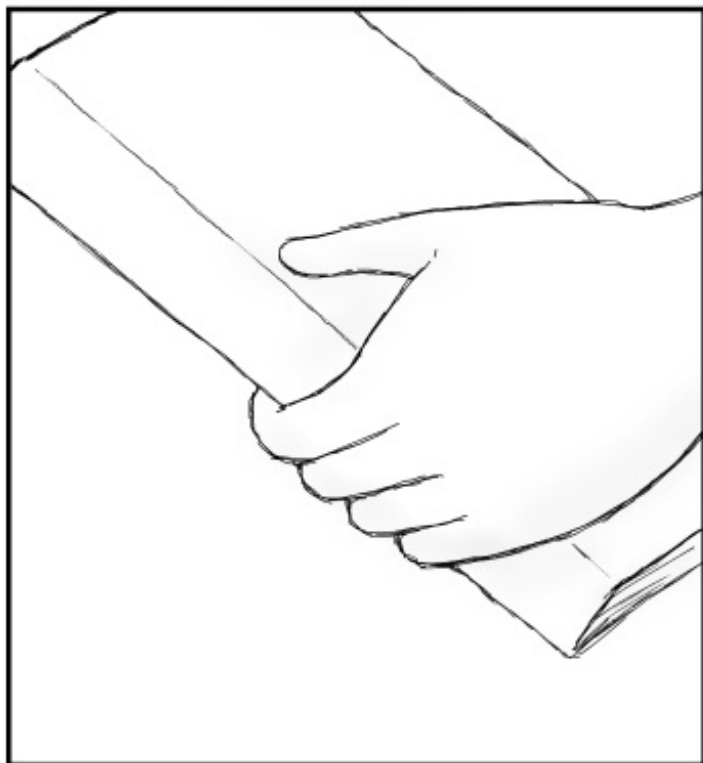
こういう風に
したかったんだよな

って—

…あれ

オレ
いつから、

なんで
笑えるように
なったんだっけ



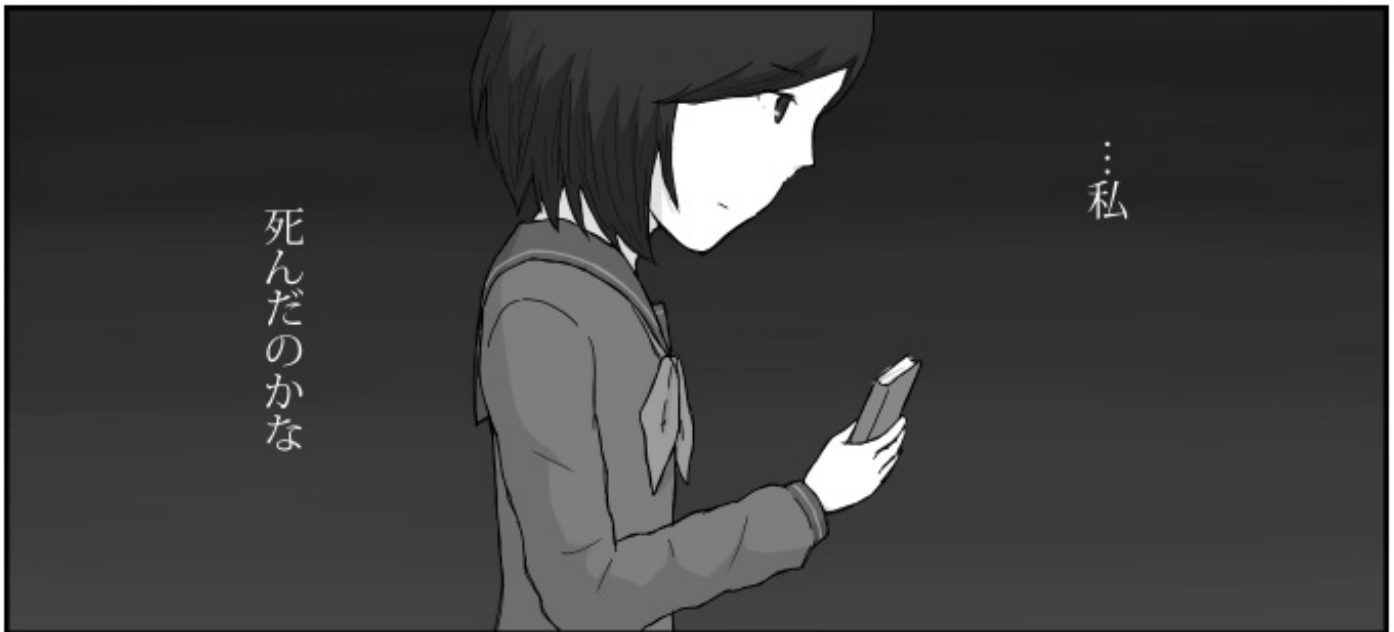
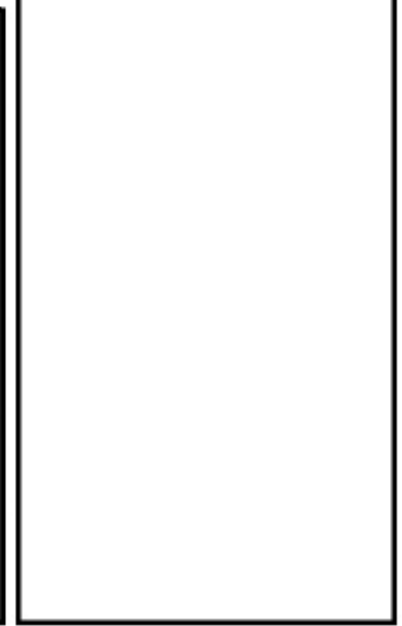




わたしは
ウソの話
大嫌い



だから燃やすの



サヤちゃん

行こう



…守ってもらったのに

私は何も
できなかつたんだ…



部長さん



勇者さんと
副部長さん
は…？

バラバラになって
しまったん
でしようか…

…私たち

みんな
死んじゃったの…？

…だから

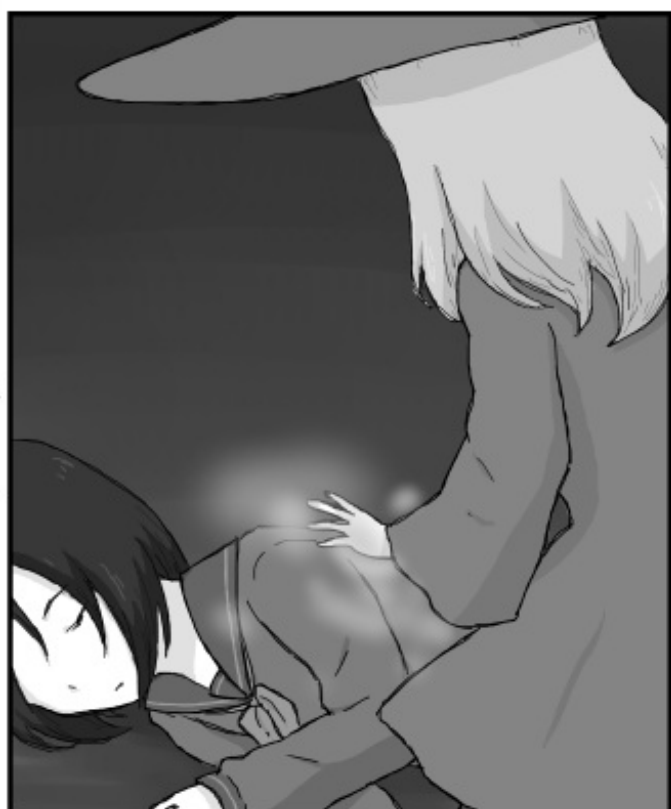
こんな
所に…

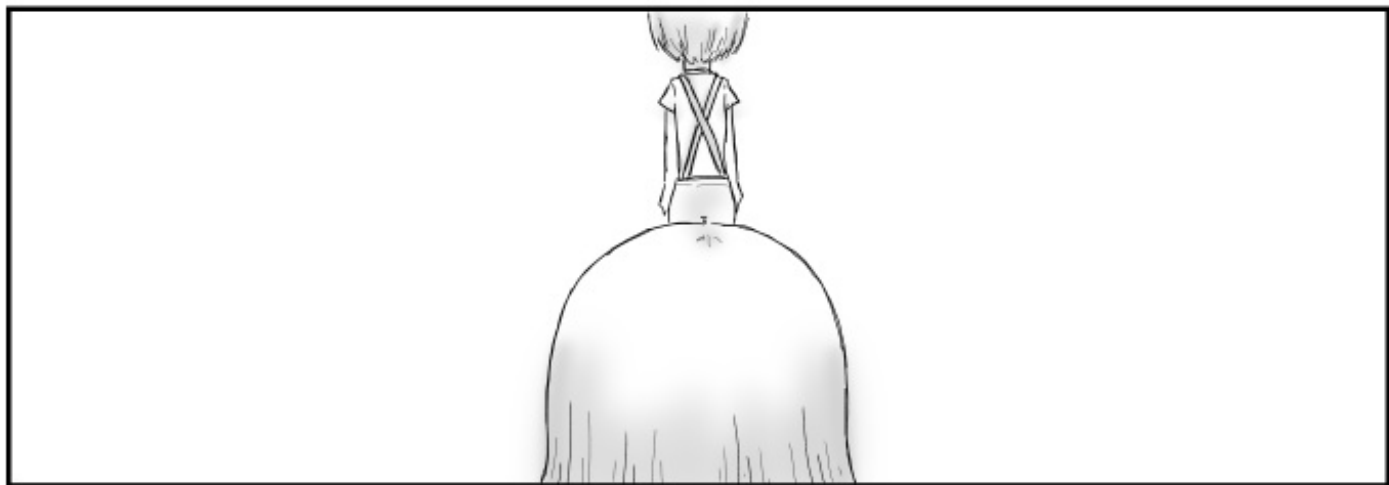
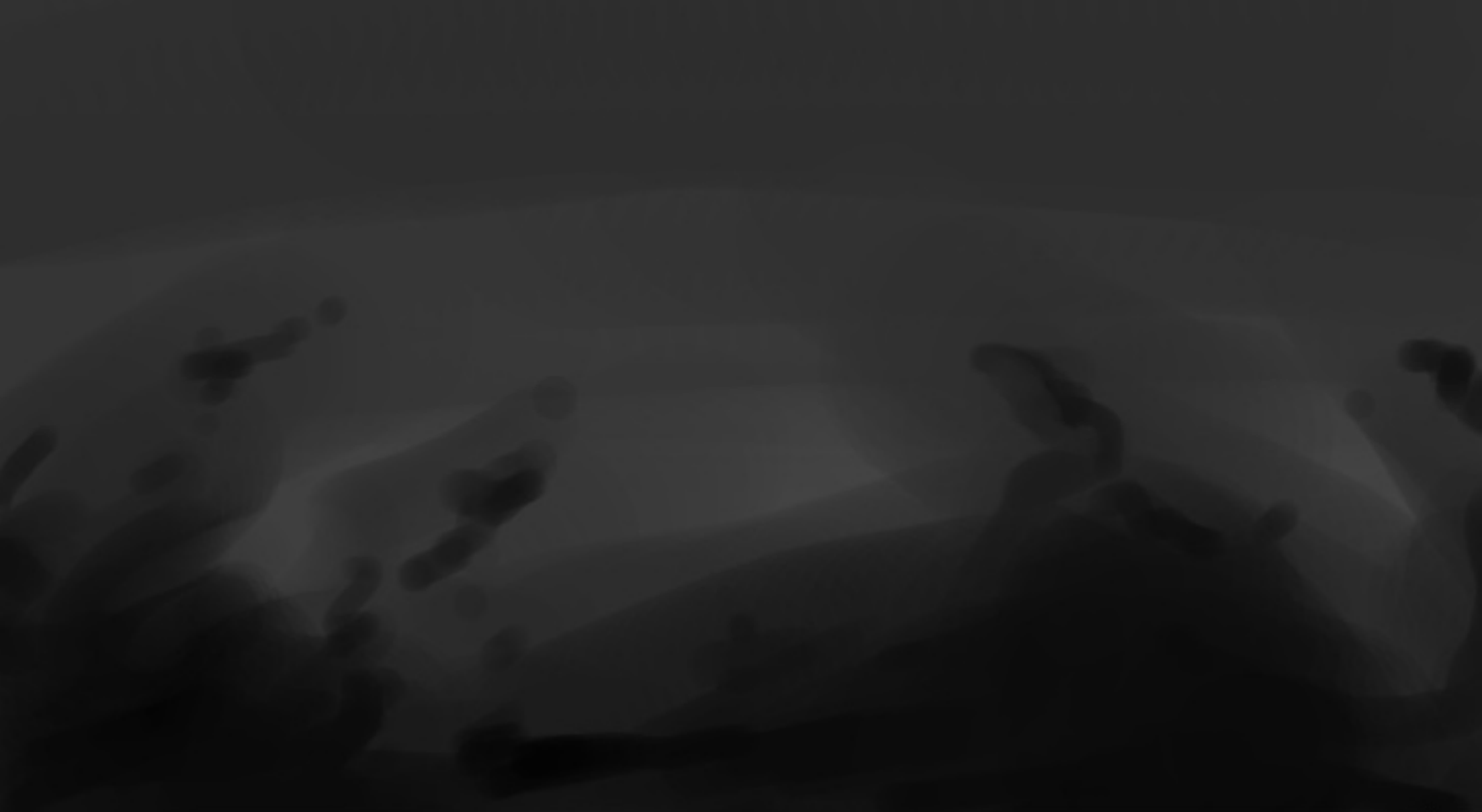
部長さん!!

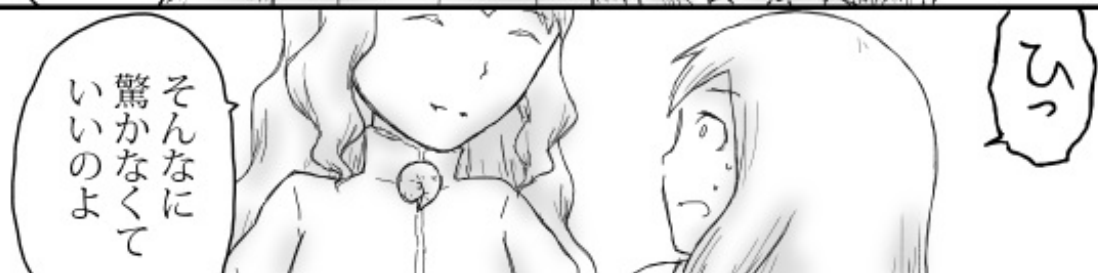
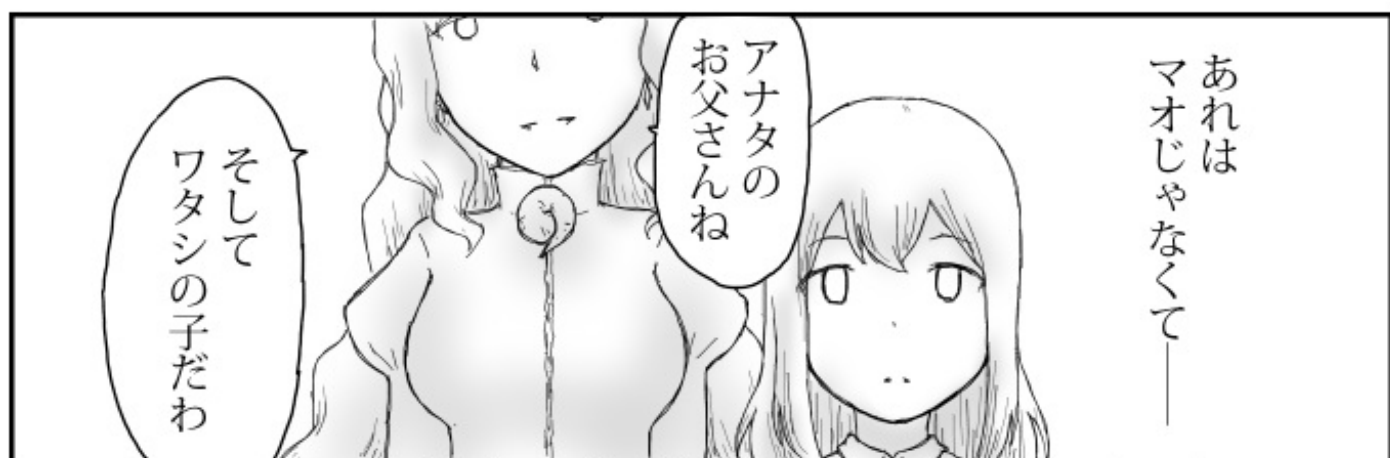
部長さん

…コウ…

大丈夫ですか…









…せっかくアナタに
会えたのに

それがこんな
悲しい夢の中
になるなんてね

…この力は
どうして

悲しい事ばかりを
ワタシに伝えるの
かしら…

…それ
夢使いさん
と同じ…

地竜くんは
最後まで戦って
隊長さんを
喰い止めたわ

今は二人とも
天空竜さまの所に…

夢使いさん…

あの子がずっと
探していたのは

アナタの魔法
だったのね

マ—ヤ

アナタに宿る
魔法は

竜の国を救う
最後の希望だわ

…そんな

ワタシが…?

…ワタシの
魔法なんて

人並みで…

あの黒竜の
魔法使いだって

倒せなかったし…

そうね

アナタの魔法は

特別なんかじゃ
ないかもしれない

でも

ワタシの願い…


ワタシ達の願いは
アナタに託すわ



アナタの魂は

黒い炎なんかには
滅ぼされたりは
しない

ワタシが
そう信じてる
って事



アナタも
信じていて

